

## 会計年度任用職員制度は非正規化 人間らしく生きられる社会を!

4月から始まった「会計年度任用職員制度」で、杉並区は2560人がその対象となりました。区職員の非正規職率が4割にのぼる実態もあります。これは、自然現象でもその人たちの自己責任でもなく、田中区政が正規職を減らし、非正規職を増やしてきた結果です。

コロナ禍において、労働のあり方そのものが問われています。ある保健所に勤める自治体労働者は、「厚労省からはひどいときには午前2時、3時や明け方にメールが届き、指針がどんどん更新される。現場対応しながらではろくに読む時間もなかった」、「5月頃から国は『検査を増やせ』『保健所の業務の負担軽減のために委託しろ』などの通知をバンバン出してきたが、そもそも検査を増やすために委託の手続きをする人員すらない」と語っています。

保健師・看護師など常勤職員の不足が全国的にも大問題となり、それを逆手に取った会計年度職員・臨時職員の採用、民間委託・派遣労働者の導入が一気に進められています。

しかし、現場で求められていることは、労働条件と職場環境の改善、賃上げと正規職の増員、施設・人員体制の拡充です。

区長は、労働者の貧困・格差や非正規問題についてどう認識しているのでしょうか?

「働く人たちが人間らしく生きられる社会」こそ、子どもたちや高齢者、障がい者、すべての人が豊かに人間らしく生きられる社会です。働く人たちが正規・非正規で分断される社会のあり方を根本から変える時です。



10月11日に行われたワーカーズアクション in 高円寺には多くの青年たちが集まり、私も一緒に声をあげました。「契約社員を使い捨てるな」「コロナの前から低賃金」のコールに車の中から若者グループがガッツポーズをしてくれたり、焼き鳥屋の店員さんが笑顔で手を振ってくれたり。

「私たち」を使い捨てる社会や職場との闘いはこれからです。変えたい現状に立ち向かう団結、繋がりを強め広げたい!

**11月1日(日)、日比谷野外音楽堂の改憲反対集会(集会=正午、デモ出発=午後3時15分)に結集を!**

### ほらぐちともこ (洞口 朋子) 杉並区議会議員

会派: 都政を革新する会  
都市環境委員会/文化芸術・スポーツに関する特別委員会  
<プロフィール>

1988年宮城県仙台市生まれ。2003年イラク戦争時、中学生で反戦デモに参加。2008年法政大学に入学。全学連として反戦運動や学生自治を復権させる活動を行い、2010年に無期停学処分。処分後も改憲・戦争・貧困に反対して奮闘。2019年4月杉並区議会議員選挙で3275票を獲得、18位で初当選。



毎日発信!  
一緒に社会を  
変えよう。



@HoraguchiTomoko

(阿佐ヶ谷事務所) 〒166-0015 杉並区成田東5-39-11 ビジネスハイツ阿佐ヶ谷603  
TEL & FAX 03-3329-8813 (都政を革新する会)  
メール info@horaguchitomoko.jp ホームページ <https://horaguchitomoko.jp>

杉並区議会議員 洞口 朋子 都政を革新する会

# ほらぐちともこ通信 区議会レポート

2020年  
10月19日発行  
第7号

## 働く者が人間らしく生きられる社会を



青年たちのワーカーズアクション in 高円寺に参加しました。(10月11日)

### 区議会第3回定例会で意見を述べました

9月9日から行われていた区議会第3回定例会が10月13日に閉会しました。

10月12日の決算特別委員会で「阿佐ヶ谷再開発」「区内基幹4病院への減収補填」「都立病院独立行政法人化問題」「会計年度任用職員制度など非正規職化」の4点について意見を述べました。

抜粋して紹介します。

※全文は、ほらぐちともこホームページをご覧ください。

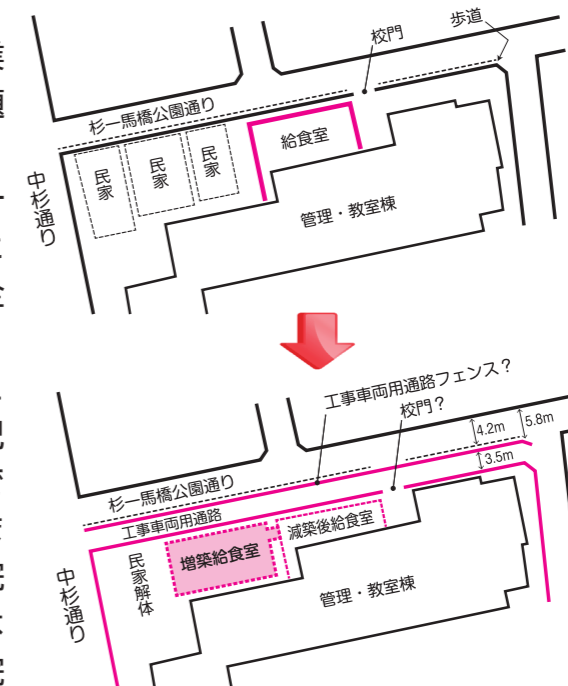
### 阿佐ヶ谷再開発 杉一小学校の給食室を削って工事用道路!?

そもそもコロナ禍にもかかわらず、多くの住民の反対の声を無視して事業計画を粛々と進める区の姿勢は大問題です。

今回補正予算で明らかになった杉一小敷地内に工事用通路を建設すること(右図)は、子どもたちや住民の安全に重大な影響を及ぼすと考えます。

10月8日の決算特別委員会で、この「工事用通路」は杉一小の建設、児童館の解体、河北病院の建設と解体で使用する道路であるとの答弁がありましたが、解体に要する工期は河北病院はおよそ1年程度で阿佐ヶ谷児童館は3~4ヶ月。延べ床面積で言うと病院

(次ページへ)



**突然出てきた疑問だらけの「通路整備」**

- 9月議会に突然提案。誰がいつ決めたの?
- どうして杉一小の給食室が削られるの?
- 通学路は危険じゃないに! 中杉交差点に右折や左折の車が往来?
- 学校関係者には知らせてあるの? 反対の声は?
- 1億5600万円もおカネをなぜ? 区が負担するのはなぜ?

が約2万平方メートル、児童館は約470平方メートル。比率は実に44：1です。ほとんど病院の建て替えのための工事車両用通路であり、そのために子どもの教育環境に影響を与えることを「病院建設のために仕方がない」と子どもたちや保護者に言うのでしょうか？

この道はもともと西行きの方通行一車線の上、曲がりくねっていて見通しが悪く、車は徐行で通過している状態です。ここに工事用車両が割り込むわけですから大変なことになるのではないかと思います。

杉一小給食室の減増築は工事用通路の建設のためであり、児童の通学、学校生活に直接



区議会決算特別委員会（10月1日）

関係する工事ですから、通路とその使い方、安全確保について明確に示し、保護者、学校関係者、周辺区民に説明し、同意を得ることなく工事を進めることは、絶対に認められません。

## 区内基幹4病院への減収補填 区費23億円は何に使われた？

私は、医療を含め、介護、福祉、教育、水道など区民が生活していく上で必須不可欠な公的領域については、全面的かつ十分に予算が投じられるべき、という立場です。民営化や外注化などもってのほかです。逆に、オリンピック関連事業や阿佐ヶ谷再開発事業、西

荻道路拡幅事業など無駄な予算投入はただちに中止すべきだと考えています。

そうした立場から、私は4月20日の区議会臨時会で「区内4病院への23億円の区費投入」に反対しました。1つに、「減収補填」という名目での病院経営への区費投入は、医療従事者の待遇向上には直結しないことが予想されたからです。2つに、コロナ感染対策が中長期的に求められる中、一度限りの区費投入が地域医療を本当に守り持続させることにはつながらないからです。3つに、区長が一方では「地域医療を守る」と言い、他方では小池都政が進める都立病院の独立行政法人化に反対しないというのは、まったく筋が通らないからです。

4病院に投入された税金23億円はいったい何に使われたのか？そして、「医療従事者への支援」とはいったい何なのか？「減収補填」の名目で投入された税金23億円は、医療従事者を支援するためのマスクや消毒器具などコロナ感染予防対策費として使われたのか？病院の施設整備に使われたのか？それとも病院資本の内部留保へと回ったのか？区長、幹部職員の方々、どなたかその具体的内訳を公表していただけないのでしょうか？

区費を投入した以上、詳しい明細を明らか

### 河北職員の賞与の推移

2017年～2020年

	夏	冬	年間
17年度	1.68	2.00	3.68
18年度	1.80	2.00	3.80
19年度	1.78	1.60	3.38
20年度	1.60		

河北総合病院の職員から聞き取り調査して作成

河北病院で賞与減額がされている事実をボードを使って説明しました。衛生病院でも賞与減額があったことが判明。

区費23億円はどこに？医療従事者が本当に求めている支援が必要です。

にし、実際の効果を検証し総括することは当たり前前のことであり、それすら明らかにできない者が「区費投入は正しかった」と強弁すること自体が、区民、納税者、そして医療従事者へのとんでもない侮辱行為です。

『東京新聞』紙上で河北博文理事長（河北総合病院）の「ボーナス減額」の放言を生み出したこと自体が、区費投入政策の失敗を証明していると私は考えます。河北理事長には、投入された23億円を医療従事者の待遇向上に使うという気ははじめからまったくないからです。そして実際に、“周年記念のものを元に戻す”という名目で今年夏の賞与は減額され、コロナ感染症対策で多忙化・激務化したにもかかわらず、河北病院の医療従事者の待遇は改善されませんでした。

杉並区は病院経営者だけでなく、何より現場の医療従事者の声を聞くべきなのです。それなしに「地域医療を守る」など空語です。

区長は「減収補填が当時の医療崩壊から病院を守った」と言いますが、医療崩壊を防いだのは区内基幹4病院だけでなく、区内の医師会が結束して対応したからです。特定の医療機関に限って支出された減収補填を、他の民間病院はどのように受け止めているでしょ

## 都立病院独法化に反対！ 医療・福祉・介護を守るために声を

杉並区には都立・公立病院はありませんが、都立・公立病院に入院や通院する区民はたくさんいます。都立病院の独立行政法人化は区民にとっても大きな影響を及ぼすわけです。

東京都病院経営本部が発表している『新しい人事給与制度原案』を都庁職労組病院支部が批判しています。都立病院独法化は医療従事者の賃金大幅減額につながる可能性がきわめて高いと現場から告発されているのです。

区長は「地域医療を守る」とたびたびおっしゃっていますが、ではなぜ都立病院独法化には反対しないのでしょうか？医療従事者の賃金が減額され、待遇が悪化して、地域医療をどうやって守れるのでしょうか？



うか？経営危機に陥っている病院は他にはないのでしょか？区はこうした実情を早急に把握することが必要です。

人がいなくて医療は成り立ちません。「病院の経営が成り立ってこそ」という理屈はもっともらしく聞こえますが、問題の立て方が逆なのです。人の命を救うのが医療であり、医療は最も基本的な社会保障であるべきです。「医療は人」です。「働く人に保障を」という要求は当然の主張です。

私はこれからもあの23億円の区費がいったい何に使われたのか、本当に医療従事者の求める支援につながっているのかどうか、現場の声を聞き、議会で代弁していきます。

それとも、「地域医療を守る」は建前だけで、「稼ぐ病院」をつくることでは、小池都知事と一致しているのでしょうか？ダブルスタンダードは現場には通用しません。

私は、医療従事者および医療労働運動に携わるすべての仲間と連帯して、医療・福祉・介護を守るために声をあげ続けます。

「都立病院をつぶすな」署名の都知事への提出行動に参加しました（8月6日）